

建設物価 建設資材物価指数[®] 2023 年 9 月分 【速報】

建設物価 建設資材物価指数は、建設資材の総合的な価格動向を明らかにすることを目的に作成されており、その対象を建設工事で直接的に使用されている建設資材に限定した物価指数です。なお、本指数は 2015 年平均を 100 として算出しています。

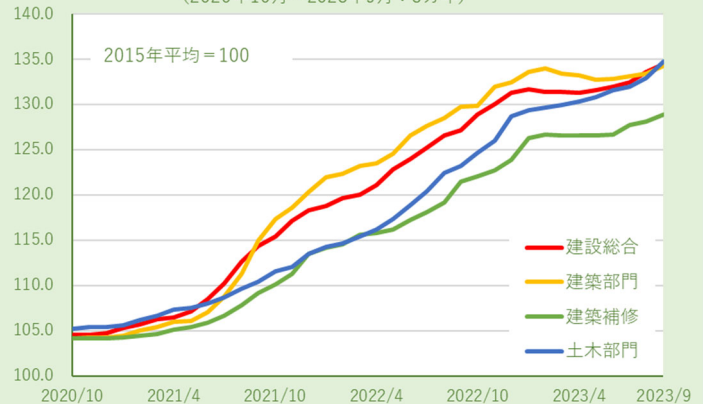
1. 指数の動向（全国平均）

建設総合(全国平均)で **134.5** と前月比+0.8 ポイント(+0.6%)と、4 カ月連続で最高値を更新した。前年同月比では+7.3 ポイント(+5.7%)。部門別でみると、**建築部門**が **134.9** と前月比+0.6 ポイント(+0.4%)。**建築補修**が **129.6** と前月比+0.7 ポイント(+0.5%)。**土木部門**が **136.2** と前月比+1.4 ポイント(+1.1%)。

金属製品、鉱産物、窯業・土石製品、石油製品・舗装材料等の 11 分類がプラスに寄与した。金属製品はケーブルラック、鉱産物は砂利・砕石、石油製品・舗装材料は燃料油が主な品目となっている。一方、マイナス寄与は、前月に引き続き、需給緩和を背景とした市場価格の下落が影響した異形棒鋼や H 形鋼等の鉄鋼製品の 1 分類のみであった。

建設資材物価指数【全国平均】

(2020年10月～2023年9月：3カ年)



2. 前月比寄与度（大分類別・全国平均）

プラス寄与

【金属製品】 ケーブルラック

メーカー最大手が鋼材の値上がり分を製品価格に転嫁し、値上げが市場に浸透した。

【鉱産物】 砂利・砕石

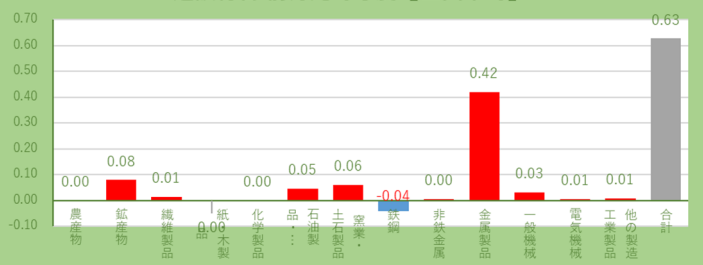
東京をはじめとする多くの都市で、製造・輸送コストの増加分を販売価格に転嫁し、値上げが市場に浸透した。

マイナス寄与

【鉄 鋼】 異形棒鋼・H形鋼

一部の主要都市を除き、需要低迷から流通業者間の受注競争が激化し、下落した。需給面での好転など、市況が底入れする要因は見当たらず、流通業者間の価格競争は続くと思われる、目先、弱基調の公算が大きい。

建設総合 前月比寄与度【全国平均】



建設総合 前年同月比寄与度【全国平均】



3. 都市別の動向（建設総合部門）

前月からの指数動向を都市別にみると、**【福岡】**(前月比+0.9%)、**【仙台】**(同+0.7%)など、全都市で過去最高値を更新した。**【福岡】**では、コンクリート用砕石やクラッシュラン、セメント、ヒューム管等の価格の上伸がプラスに寄与し、鉄鋼製品の価格が横ばいとなったことから、指数の変動率が最も大きくなった。他都市では金属製品以外に大幅なプラス寄与がみられなかったことから、指数の上昇は緩やかであった。

政府が燃料油価格激変緩和措置として補助金の拡充を実施し、燃料油価格が下落傾向に転じたことから、今後、マイナス要因となる公算大。ただし、多くの資材でコスト未転嫁分の価格交渉が進んでいることから、指数は引き続き増加傾向にあるとみられる。

各地の建設総合部門の指数【9月分】

全国平均：134.5 前月比 +0.6% 前年同月比 +5.7%	新潟：131 前月比 +0.5% 前年同月比 +3.5%	札幌：135 前月比 +0.6% 前年同月比 +7.0%
広島：133 前月比 +0.5% 前年同月比 +5.0%	大阪：138.8 前月比 +0.5% 前年同月比 +6.4%	仙台：130.2 前月比 +0.7% 前年同月比 +5.0%
福岡：136.4 前月比 +0.9% 前年同月比 +6.3%	東京：134.1 前月比 +0.6% 前年同月比 +5.7%	
那覇：133.9 前月比 +0.6% 前年同月比 +6.4%	高松：139.8 前月比 +0.6% 前年同月比 +5.0%	名古屋：134.8 前月比 +0.5% 前年同月比 +6.3%



一般財団法人
建設物価調査会

【指数に関するお問合せ先】

総合研究所 経済研究課 担当：若澤

TEL：03-3663-7235 E-mail：econ@kensetu-bukka.or.jp

【資材価格に関するお問合せ先】

調査統括部 調査統括課

TEL：03-3663-3892 E-mail：toukatsu@kensetu-bukka.or.jp